

崩壊熱評価ワーキング・グループ会合議事録

日 時 昭和54年7月30日 13:30 ~ 17:30
場 所 原研本部 第31会議室
出席者 宝珠山(MAPI), 村田, 吉田(NAIG), 山田(早大), 秋山(東大),
中嶋(法大), 梅沢, 松本, 田坂(原研)

1. 報告事項

i) 人 事

東北大山本氏は本年4月から東芝に移り, 会社の都合により, 委員辞退。

原研田坂氏は本年6月帰国し, 委員として復帰。

ii) 崩壊データ処理コードPROFP

3月末までに山本氏が完成し, 内部転換電子やベータ・プラスの計算も含めた。
些細なエラーについては松本氏が修正し, 近日中にコード・マニュアルをJAERI
レポートに出す予定。

iii) サブ・ワーキング・グループ作業

崩壊データの収集は昨年末に一応終了したが, 新しいデータを加えて, 現在全部
カード・パンチを終わった。PROFPの計算は, $A=66 \sim 102$ と $A=111 \sim 172$
の計99A-チェーンを終了し, $A=103 \sim 110$ の8A-チェーンも計算機にかける
だけなので, 事実上完了したといってもよい。

2. 今後の作業計画

超アクチニウムの崩壊熱の問題もあるが, 54年度は分裂生成物の崩壊データ・ファイ
ルの完成に全力を集中して, 年度末に報告書をまとめるように努力する。

その作業の進め方は,

i) データ・ファイルの形式決定とPROFPからの変換コード作成, および収率デー タの入力

サブ・ワーキング・グループのメンバーは

吉田, 宝珠山, 秋山, 田坂, 松本(中嶋)

収率データは、ENDF/B形式で新しいMeak-Riderのデータが入手できれば、それから変換する。

ii) 未知データの推定

大局理論による推定(吉田), Q_{β} に対する相関——系統性による推定(田坂)などを検討する。

上記サブ・グループのメンバー以外に村田氏が加わる。

iii) Q_{β} 値とその推定

Wapstra-Bosあるいは新しい実験値以外は、山田氏が近日中に計算する値を採用する。

iv) 新しく出る実験データは、見つけ次第そのデータあるいはデータの所在を松本氏宛に知らせる(担当は全員)。

3. アメリカでの崩壊熱の実験および計算(田坂)

アメリカにおける崩壊熱研究の報告が田坂氏より行なわれ、活発な質疑応答があった。とくに今後の問題として、

i) neutron captureの効果が重要

ii) ^{96}Y , ^{134}I , ^{142}La などいくつかの重要核種のデータ検討が重要

iii) ^{235}U 以外の分裂性核種の問題

iv) Q_{β} の不確定さによる崩壊熱の誤差が案外重要になるかも知れない。などが挙げられた。

4. その他

i) 今年末に核構造を主にした研究会が開かれるかも知れない。もし開かれたらその際に経過報告をして、全体会合は54年度中に行なわないかも知れない(サブ・グループ作業重視)

ii) 次のサブ・グループ作業は8月9日(東海)